

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

部活動表彰

～野球部 甲子園の心を求めて～

野球部の皆さん、第108回全国高等学校野球選手権東京大会、準優勝本当におめでとう。

126校の頂点、そして甲子園出場という夢を目指して、最後まで堂々と戦い抜きました。決勝戦では、あと一步のところまで夢に届きませんでした。もちろん、悔しさは残っていると思います。しかし、胸を張ってほしいと思います。

野球部の活躍はこの夏、二松学舎に「夢」と「元気」を与えてくれました。グラウンドで最後まで諦めずに戦う選手たち。そして、その選手たちの背中を押そうと、スタンドから声を枯らして応援する仲間たち。応援団、吹奏楽部、チアリーダー部の応援三部を中心に、全校生徒が心をつなげて応援しました。あのスタンドの一体感は、本当に素晴らしかった。野球部の皆さんが頑張ったからこそ、学校全体が一つになれたのだと思います。そして、応援してくれた皆さんにも、心から感謝します。

さて、野球部の皆さん。準優勝で終わったことを、単なる「あと一步」では終わらせず、その悔しさを、次の挑戦への力にしてください。間もなく秋の大会が始まります。「あと一步」を「次こそ」に変える。その気持ちで、また新たな一步を踏み出してください。

そして全校の皆さん、これからも野球部を、仲間を、みんなで応援していきましょう。



避難訓練を終えて

9月1日は「防災の日」。今から103年前（1923年9月1日）に発生した関東大震災を忘れないために設けられました。そして、その時代を代表する物理学者・防災学者の寺田寅彦が残した警句が『天災は忘れた頃にやってくる』。この言葉から防災・減災の重要性を考えてみましょう。

本校でも9月1日に避難訓練が実施されました。「オオカミが来るぞ」と何度も言っていると我々はそれに慣れ、「どうせまた・・・」と思いがちです。でも、南海トラフ地震は、政府の地震調査委員会によると今後30年以内の発生確率が「60～90%程度以上」と予測しています。

7月に起きた熊本地震では、大きな揺れが繰り返し発生し、多くの方が被災しました。また、千葉県の豪雨では、車に閉じ込められて亡くなった方や北陸地方の大雨でも、河川の氾濫や土砂災害など、大きな被害が発生しています。

そして、災害は日本だけの問題ではありません。ネパールなど海外でも、土石流や洪水が発生し、多くの人々の生活が脅かされています。こうした災害の背景には、地球温暖化による気候変動も指摘され、気温が上昇することで、これまでにないような大雨が降る可能性も高まっています。

つまり、私たちは今、「過去の経験だけでは予測できない災害が起こる時代」を生活しているのです。気象庁が発表する『特別警報 レベル5』は「これまでに経験したことのない〇〇、命の危険が迫っているため 直ちに身の安全を確保」する必要がある状況を示しています。

だからこそ大切なのは、災害が起きてから考えるのではなく、「起きたらどうするか」を、起きていない今、考えておくことです。本当に大切なのは、訓練の時間だけでなく、もし今、大きな地震が起きたらどうするか。家族とはどこで落ち合うのか。スマートフォンが使えなかったらどうするか。ぜひ、家族とも話をしてみてください。

そして、皆さんは高校生です。災害のとき、皆さんは「守られる側」であると同時に、「誰かを支える側」にもなれる存在です。困っている人に声をかける。友達を落ち着かせる。周囲の状況を見て、自分にできることを考える。それも立派な防災です。

災害が発生したら、まず自分の命を守る。そして、大切な人の命を守る。そのための備えを、今日から始めてください。

